

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600112		
法人名	医療法人社団敬和会		
事業所名	グループホームあおやぎ		
所在地	岩手県北上市青柳町2丁目6-9		
自己評価作成日	平成26年7月8日	評価結果市町村受理日	平成26年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&ji_gyosyoCd=0390600112-00&PrefCd=03&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても心は常に動いていることを忘れずに、喜怒哀楽を感じながら生き活きと生活が過ごせるように支援しています。一方的な介護ではなく、利用者自身で選択できる機会を多く持ち「自信を取り戻すケア」を目指して日々努力しています。施設内での楽しい時間だけでなく、住み慣れた場所や馴染みの人との触れ合いにも力を注ぐようにしています。地域の方々とは、地元老人クラブを中心として、「地域で支える認知症」を目指し、啓蒙活動を継続しています。その中から今後は、認知症カフェの活動や徘徊模擬訓練などを地域の方と一緒に検討中です

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあおやぎは3階建ての2階部分にあり、1階は小規模多機能ホーム、3階は高齢者住宅となり、総称としてあおやぎの家と呼ばれている。北上市の商業地に近い新興住宅地に立地し、近隣は60代以上の方々が多く住み、高齢者の生活にも関心が高い。地元老人クラブや民生委員、区長に認知症に対する理解を促し運営推進会議のメンバーとしてお招きしたり、事業所の見学をして頂くほか、行事へのお誘いや、公民館で認知症についての講演を行い共に学んだり、日々の散歩、買い物時の挨拶や高齢者の相談を気軽に受けたりと啓蒙活動を継続し、今年度は認知症カフェや徘徊模擬訓練を地域の方々の協力の下モデル的に行う予定である。防災についても消防署を始め地域の方々の協力を得ながら、十分な日中の訓練を行い安全の確保に努めている。日々利用者が生き活きと生活出来る様観察し、週1回のケアカンファランスを職員間で行い、今何に、興味があり、誰に会いたいか等を大切に、利用者の意向や希望が叶えられる様支援をしている。また、職員間でメッセージカードを書き、それぞれの良い所、学びの部分を書き、お互いのケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[あおやぎの家]全体の施設理念を掲げ、職員の目に触れる場所(玄関)に掲載している。「活き活きと生きるための支援」を、職員に意識してもらうようにケース検討会や勉強会で伝えている。	理念は「家族、家庭の様にいきいきと生きる為の支援」を開設当初の職員と考え、作成、日々心にわくわく感を持つ事、いきいきする事を大切に考え、毎週の検討会議で一人ひとりの利用者さんが、今、何に興味を持っているのだろうかということを職員で話し合い検討し、共有している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元区長や老人クラブ等に認知症の理解のための啓蒙活動を継続し、「認知症になっても安心して暮らせる6区」にしようと、地域住民の代表者の方で勉強会をするようになってきている。秋には徘徊模擬訓練を予定し、認知症カフェも地域で検討中になっている	地域の黒沢尻5区6区は、60代70代の方々が多く、老人クラブや各区長さんが認知症や介護について強い関心と理解を示し、事業所見学をしたり、公民館で認知症についての講演会を開催し理解を深めている。今後、認知症サポートの寸劇を鑑賞したり、モデル的に徘徊者へ声掛けをする徘徊模擬訓練を予定している。子供達が訪ねて来ることもあり、挨拶を積極的に行い、交流に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との「芋の子会」の開催や、避難訓練など一緒に関わる機会を作っている。普段の散歩の時には、声をかけてくれたり、お花を分けてくれる近所の方もいる	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとに開催している。区長、民生委員の他、高齢者一般住民(有識者)も参加してもらっている。事業所内の報告だけでなく、認知症関係記事についてや、DVDなども活用し、認知症の啓蒙活動も行っている	運営推進会議では、認知症の啓蒙活動や事業所内での取り組み、利用者の様子、行事や、事故の報告を行い「大変だね」等共感や意見を頂いている。参加者に84歳の元福祉行政に携わった方や、家族、区長、民生委員、包括支援センターの方々、時に警察、消防署職員に参加頂き、指導や協力を頂いている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域で開催する認知症の勉強会にも、地域包括支援センター職員にも参加してもらい、繋がりを意識するようにしている。運営推進会議にも参加してもらっている。	市の担当者には事故事例を報告したり、市から紹介された困難事例をGHで引き受け、連携を行っている。また地域ケア会議、食品改善会議に参加し市と交流したり、地域で開催する認知症の勉強会に地域包括支援センターの職員を招き、繋がりを大切にしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマットの活用、居室ドアに鈴の設置、出入り口へのチャイムの設置等で転倒や脱苑防止を図っている。外に出たがる利用者には一緒に外出するなどして対応している	職員研修や勉強会、職員交換交流で身体拘束防止についての徹底理解を図っている。また日々のケアでは、言葉による拘束にも注意をしている。現在1名の利用者が、階段を下りて一階の玄関まで不定期に行かれる方がおり、さりげなく観察し引率している。今のところ、外までのエスケープに至っていない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面のみならず、言葉の虐待も含めてお互いに気をつけ、気になったときには声をかけるなど起きないように心がけている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見員制度を利用している方は2名いる。必要と思われる方には情報提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、出来るだけ分かりやすい言葉で説明するように心がけ、本人や家族の不安を共感し受け止めるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の異については知らせて欲しいとの要望があり、異動があるときには、その都度家族様へ書面で通知している。	新年会を開催し、家族を招いて、日常の利用者の様子をビデオでみて頂いたり、家族面会の際、ご本人に会う前に最近の様子や変化を説明し、理解を得ている。また家族から歯の汚れを落として欲しい、身体を動かして欲しい、面会簿を作って欲しい等要望や意見を頂き、職員異動の際もお手紙で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日にはケースカンファを行い、月に一回は職員会議を開催している。職員は2ヵ月毎に個人目標を作成し、その目標に対して職員同士でメッセージカードの交換を行っている	毎月の会議や毎週のカンファランス、毎日のケアの中で利用者の状態に合わせて職員の意見によりテーブルの配置を考えたり、足を拳上する枕を購入したり、ランチョンマットを新調したりと、職員の意見を運営に反映させている。また職員同志でメッセージカード交換をし、良い所を評価し、励まし合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は、代表者・管理者・職員が話し合いを行う場を設けている。随時ではあるが、管理者も職員と面談時間を設けるようにしている。1万円以内であれば管理者権限で使用でき、小行事などはやりやすい環境になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員に対しては、指導担当職員を配置し業務実践の見極めを行なっている。殆どの職員は法人内外の研修に参加しており、学んだ内容をスタッフ会議で伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内及び姉妹法人のGHとの交流を定期的に図っている。管理者は県南ブロックGH協会の定例会議にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時には、事業所側からの話よりも、本人や家族が話しやすい雰囲気大切に、共感する姿勢で傾聴している。初回利用時本人の混乱を最小限にするよう傍にいる時間を多くしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時には、事業所を説明することよりも、家族が話してくれる時間を多く取るように配慮している。話しやすい雰囲気大切に、共感する姿勢で傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH利用だけにこだわることなく、居宅介護支援や小規模多機能、施設入所など、多方面から検討するように努め、その方の「最適」を家族とともに模索するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の話を伺うだけでなく、自分自身の話しながら、相手も知り、自分も分かってもらうような関係を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはこちら側から伝えるだけでなく、家族の気持ちも伺えるように、声をかけるように意識している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも協力しながら、本人の馴染みの場所やゆかりのある方に会いに行けるような支援もしている	利用者の希望により、家族または職員が、入院中の奥さんに会いに連れて行ったり、月に1回自宅に帰る方、年に数回自宅へ帰る方、自宅がない方は本家に帰る方、馴染みの美容院に行く方がおり、非常に表情が豊かになって帰って来られる。以前勤務していた元従業員が面会に来る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性も見ながらテーブル配置はしている。利用者同士の会話には注意を払い、手作りおやつなども出来るだけ共同で作ってもらい、一体感がもてるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の老健施設入所になった方で、その後も関係を継続し、希望にあわせて他のGHへの入所支援をおこなった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月間に1回アセスメント時に意向確認している。困難な場合は、日常会話やさりげない変化を見逃さないようにしている	日々のケアの中で、さり気ない変化や会話から、意向を把握する努力をしている。また職員がこの利用者は誰に会いたいのだろうと言う事を念頭に接し、分かった際は、叶えられる様に努めている。(利用者さんの生き生きとした表情の為に)3か月に1回アセスメント時にも意向を確認しているが、家族の参加は難しい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし方を、本人や家族、以前入所していた事業所を通じて確認し、職員間で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、3ヶ月に一度過ごし方、状況把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週ケースカンファの時間を持ち、ケアマネも参加し課題や情報を共有している。ケアプランは職員が常に見れる画面にあり、3ヶ月ごとに見直しもしている	毎週月曜日午後1時半からケースカンファランスを持ち、ケアマネジャーを取得している職員を中心にして、課題や情報を共有し現状に即した介護計画作りを努めている。問題点は多くても3つ迄を目標に考えている。介護計画は独自開発の介護記録システムの画面で常時見れる様になっており、3か月毎の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自開発の介護記録システムが「ケース記録」だけでなく「個人の気づき」も入力できるため、普段の中から気づきは意識できている。そのシステムの活用で情報共有もされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方な入居者の受診支援、携帯電話の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での敬老会やお仲間での食事会など、馴染みの場所や人との交流は継続してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は家族に依頼しているが、個々の状況に応じて職員が同行したり、訪問看護や主治医へ状況報告している。遠方の家族ともメールや電話等で情報を伝えている	入居している利用者の5名が掛かりつけ医を利用されているが、外来受診を家族の付き添いのもと行っているのは1名である。同法人の協力医が週1回、訪問診療を、同じく法人内の訪問看護も定期訪問しており、適切な医療が受けられる様努めている。歯医者は近隣の松浦歯科で必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職とも協力しながら、情報把握に努め健康管理に努めている。看護職は介護スタッフに対し観察ポイントを具体的伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早めに在宅情報を提供し、入院中も随時家族や連携室とも情報交換は行うようにしている。特に認知症の利用者の場合は、環境ダメージが最小限で済むように、退院の打診がある場合は早めに受け入れしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のご希望がある場合には、施設でも看取りをさせてもらっている。重症化した場合は、早めに家族の意向を確認しながら、主治医とも面談する時間を作っている	看取りの同意書は作成しており、本人・家族の希望、意向にて今迄に3人の方の看取りを経験し、内1名が今年看取られている。看取りの希望がある時は、家族の意向を確認しながら協力医や掛かりつけ医と話し合い、事業所内の看護師、訪問看護師の連携のもと支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に急変時対応した職員を中心に、その時の状況や対応について繰り返しカンファ等で話してもらい、職員それぞれが初期対応がイメージできるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3ヶ月ごとの避難訓練は実施し、年1回は消防署・地域住民の方にも協力を頂き、火災訓練を実施している。地域の方には避難後の見守り役をお願いしている	2～3ヶ月毎に避難訓練を行い、年に1回は消防署、地域住民の協力の下総合避難訓練を行っている。通報連絡先には3番目に地域の方が入り、訓練時に5、6名の地域の方に参加頂き、主に避難した利用者さんの受け取りと見守りの役割を担って頂いた。水等備蓄も行っている。夜間想定はまだ行っていない。	消防、地域の方々との協力体制は出来ているので今度は、素晴らしいと感じた。夜間想定または、可能であれば実際の夜間避難訓練を行うことで、職員の非常時の対応等が磨かれ、安心にも繋がると感じることから、その取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への訪問時は必ずノックをしている。「トイレ」など不快と思われるような言葉は、本人だけに聞こえるように配慮している。浴室は個室で対応している	プライバシーの勉強会や、尊厳について、判断能力の乏しい認知症の方に対してのグループワークを行い周知を図っている。居室に入る際は必ずノックをして許可を得る、トイレへの誘導も「そちらへ行きましよう。」とさり気なく声掛けをするよう努力している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間など、選択できる機会を作るようにしている。利用者の希望を会話の中から見つけることが出来るように努め、日々の活動でも常に本人の意思確認を行うようにしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が気持ちよく過ごして頂けるように、休憩場所や時間も特に指定はしていない。午後の時間は特にオセロやトランプ、お話など少人数での活動にしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からも整容には配慮しているが、おしゃれの日(7の付く日)には女性利用者はネイルなども楽しんでいる。入浴後の化粧水や乳液なども希望者には、使用してもらっている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理には参加してもらうようにして、盛り付けや味付けなども一緒に行うようにしている。献立は職員が行っているが、系列施設の管理栄養士にも時折献立表の確認は受けている	利用者の食事の好みはある程度聴き、桃が食べたいなど主にデザート系で活かしている。献立は職員が立て系列施設の管理栄養士に指導を受けている。調理の際3名の利用者さんが盛り付けや準備に係わり、後片付けの時もお手伝いをする方がいる。職員も食事介助をしながら、一緒に食べて、外食もたまに行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしている。食事が少ない方には個々に応じて工夫しているが、時には関連事業所の栄養士にも相談しながら対応している。水分もこまめに提供するようにしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きは実施している。個々に応じて、ガーゼや歯間ブラシなども使用している。口腔ケア関係の研修に出向いた職員が中心になって、他の職員指導を行っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導はしていない。新規の方で排泄パターンが分かりにくい方は、個別に記録用紙も作成し把握する場合もある。排泄は出来るだけトイレで座ってしてもらうようにして、2名介助で行うこともある	現在リハビリパンツ使用の方が10名中9名で、1名がパットのみを使用している。利用者によってトイレ介助を2名で行う事もある。出来るだけオムツのコストが掛からない様な配慮に努め、其々の排泄の状態に合わせてさり気なく誘導等、排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は看護師(併設の小規模の看護師)が主に薬調整し、排便コントロールしている。個々によっては冷たい牛乳や腹部マッサージなどで対応する方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ同性職員が対応するようにしている。時間は利用者の希望を尊重するようにし、入浴剤・音楽・ポスターなどで気持ちの良い入浴環境にも配慮している	利用者の希望に合わせ、同性介助にて入浴を行っている。現在は、午前10時から午後3時までに入浴される方が殆どで、歌謡曲を流したり、リズムカルな曲をかけてお風呂を嫌がる利用者さんをお誘いする事もある。浴室に季節毎のポスターを掲げ、菖蒲湯やバラ湯等入浴剤を入れてお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間寝つきが悪い方には、就寝前の暖かい飲み物や入眠までの話し相手など対応している。部屋の温度や明るさにも注意している。体力低下がある方は、日中でも短時間の休息が取れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬資料は、いつでも見れるようにしている。薬の変更がある場合には「なぜ変更になったのか。何を観察するのか」申し送りで行っている。誤薬防止として服薬介助時には、2名の職員で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、調理など出来ることは継続し、編み物、歌、園芸など本人が好むことを支援している。おしゃれの日にはネイルに興味がある方には提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から晩秋までは出来るだけ外出の機会を多くしている。美容院への外出や衣類の買い物など、家族支援が難しい方には支援している。近所への散歩は日課としてほぼ毎日数名は出ている	近所への散歩を毎日3名一組として、職員引率のもと出掛けている。家族が外出支援できない時等、さくらのデパートへ洋服を買いに行く事もある。また市内のお祭りには、利用者全員で出掛け、楽しんでいる。季節のドライブでは、春の北上川の鯉幟や展勝地のツツジを見に行ったり、錦秋湖へ紅葉を観に出掛けたりと外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自分で管理(管理できる範囲での金額)していただいている利用者もいる。金銭管理は施設側で行っているが、買い物での外出時には、能力に応じ支払いをしてもらうこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方とは携帯電話を利用したり、市内の方でも希望があれば施設内の電話を活用し、いつでも話せる環境にしている。年賀状も毎年大切な方へ出す支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の飾りなどは季節感があるものを意識しているし、清潔感が保てるように環境整備にも注意している。ソファも数点配置し、居心地の良さを感じてもらえるように配慮している	廊下に夏を感じさせる手作り風鈴や書道、利用者の写真が飾られ、居間兼食堂にデザイン性のある仕切りがあり、テーブル中央に職員の知り合いから頂いた薔薇の花が飾られ、優雅な雰囲気を醸し出している。ソファも数点置かれ、居心地良く過ごせるような工夫がされていた。利用者さんが休めるベットも設置され、10人目の利用者が主に使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席の配置にするなどの配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込品への制限はしていないし、馴染んだものを持参してもらうように説明をしている。家族写真など持込し、居室に飾っている方も多し	筆筒とベットは事業所の備付である。机やベットテーブル、洋服掛け、お仏壇が持ち込まれ、写真立てや小物入れ等、馴染みのものや好みの物が整理されて置かれている様子が、清潔で居心地の良さを感じさせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがトイレ・浴室・廊下に設置され、一人でも立ち上がりや歩行が出来るような環境になっている。		